

一茶ゆかりの里四季の俳句会 (令和五年一月〜三月分)

選者 高山俳壇 松本 孝夫 先生

一般の部

特選天 春光にほのかな重さにけり 愛知県 武山 明彦

光輝く春の日光、この句のほかな重さが生き生きしている

特選地 雪解けて道端のゴミあちこちに 群馬県 竹淵 洋子

積雪の時は分らない

雪解けすると落葉、捨て缶、枯れ枝、又さまざまな物が目立つ

特選人 風の無き刻見計りて畦を焼く 群馬県 仙田 美名代

風が無くても火力が強まると火力風が起きるので畦を焼く時は気配りが大事である

入選 寒の水喉がぐびりと胃に教え 愛知県 武山 明彦

入選 初孫の歩み確む松の内 群馬県 安齊 和子

入選 幻に蓑着た一茶雪の道 長野市 関 茂男

入選 闇の中猫が猫追う猫の恋 群馬県 山口 岩美

入選 つくばへる母あるやうな冬菜畑 群馬県 鈴木 百合子

入選 洗濯物おどりおどりて風光る 群馬県 竹淵 千恵子

入選 春温し日差しも乗せる乳母車 群馬県 篠原 庄治